



15

# 「末広町商店街振興組合」の取組

瀬戸市

空き店舗対策委員会・すえひろ舎

「攻めの姿勢」で目指す、地域に愛される商店街づくり。



末広町商店街の様子

## ❖取組を開始したきっかけ

瀬戸市は、大正時代から昭和戦後にかけて、陶磁器産業の発展とともに栄えた。この地域で働く人々を相手とした商売が各所で盛んになり、末広町商店街もまた主要な商業集積地の一つとして大変な賑わいを見せていた。その頃に建てられた立派な日本家屋は今でも商店街内に数多く残っており、「尾張の小江戸」と呼ばれた黄金時代の名残がそこかしこに感じられる。

現在、末広町商店街には東西270mと瀬戸市で

最大のアーケードが設置されているが、老朽化が著しいため、平成24年からアーケードの改修を検討し始めた。

計画を進めていくにつれ、次第に組合員同士の団結力が強まっていき、商店街活性化への取組に対する意識も向上していった。バブル崩壊後から徐々に目立つようになった空き店舗を解消し、昔のように地域の住民が集う賑やかな商店街を取り戻すための、末広町商店街の取組が始まった。

取組

## 空き店舗対策委員会



### 取組の概要 >>>>

空き店舗が増え続ける現状を打破すべく、当商店街は平成24年に空き店舗対策委員会を発足させた。瀬戸市では、まちづくり会社が精力

的に商店街の空き店舗対策を行っているが、これは当商店街独自の取組である。

当委員会は組合員に対してアンケートを取

り、廃業予定があるか、廃業するとしたらいつ頃か、その後は店舗をどうするかなど、通常では聞きにくいような一歩踏み込んだ情報を敢えて収集している。

そして今後、いつ、どれだけの空き店舗が発生するのかを事前に把握し、廃業予定の商店街に対しじっくりと改装・改築や家賃等の相談に乗っていく。空き店舗ができてから行動するのではなく、先手を打って

計画的に対策を行う、「攻めの空き店舗対策」である。

空き店舗を使った取組として現在検討しているのは、買い物に来た母親が子どもを預ける託児施設や、学童のような使い方ができる子育て支援施設を作ることだ。「地域に愛される商店街づくり」をモットーに、商店街全体の状況を見据え、住民のニーズに合った店舗を充実させていくつもりだ。

取組

## 「すえひろ舎」



### 取組の概要 >>>>

当商店街では、空き店舗を活用し、平成26年2月に組合直営店「すえひろ舎」をオープンした。

すえひろ舎は店舗裏に事務所を併設し、商店街でのあらゆる活動の拠点となるほか、宅配サービスや出張販売等の買い物弱者支援事業も行う。1Fは駄菓子屋と、主に地元作家の作品を展示するレンタルボックス形式のギャラリーになっており、子どもから大人まで、幅広い世代の人々が楽しめるような店舗になっている。ギャラリーでは作品の展示だけでなく、ハンドメイド雑貨等の委託販売も行っており、若手作家のチャレンジショップ的な役割も果たす。

また、かねてより、商店街が行っている事業が組合員等になかなか浸透しないという課題があったが、商店街の活動を発信する窓口としてもすえひろ舎を役立てていくつもりだ。



▲組合直営店「すえひろ舎」 ▲駄菓子とハンドメイド雑貨が並ぶ



▲地元作家の作品を展示し、ギャラリーも兼ねた店内の様子(1F)

### ❖取組の効果・課題等

空き店舗対策委員会は、まだ始動してから日が浅いため、活動に対する評価をすべき時期ではない。当面は、オープンしたばかりのすえひろ舎の事業を軌道に乗せることが重要だ。

「直営店」の言葉どおり、すえひろ舎は商店街が直接「経営」する初めての店舗である。すえひろ舎で出した利益を商店街の他の事業に充てられるようにするのはもちろんのこと、すえひろ舎の「経営」を軸に、商店街の

各個店の販売促進になるようなことも組合主導でやっていきたいと考えている。商店街全体をひとつのショッピングセンターと考え、「経営者」の立場で商店街を引っ張っていく。そうした「攻めの姿勢」で商店街が目指すのは、どこまでも「地域に愛される商店街づくり」。それだけは、これまでもこれからも決してブレることはない。

### 商店街DATA 末広町商店街振興組合

所在地 ● 瀬戸市末広町 アクセス ● 名鉄尾張瀬戸駅 徒歩10分 設立年月日 ● 昭和40年 組合員数 ● 49名  
代表者 ● 猪塚 雅直 TEL ● (0561)82-2501